

## ドクササコはやはり日本特産ではないだろうか

登木口 進

JA 新潟厚生連小千谷総合病院神経内科

原稿受付日 2020年5月1日, 原稿受領日 2020年9月15日

ドクササコは従来 *Clitocybe acromelalga* Ichimura と呼ばれ, 1977年8月アメリカフロリダ州タムパでの第2回国際菌学会シンポジウムで本郷と横山により, 日本特産であることが発表された<sup>1)</sup>。1985年までに日本で出版されたきのご図鑑<sup>2)</sup>には日本特産と明記されているが, それ以後に出た本<sup>3)</sup>には, 韓国にもあるという説が記載されるようになった。しかし, 韓国のドクササコについてはどの本にも出典が明記されていない。

Vizzini ら<sup>4)</sup>は2012年に新しいドクササコの分類を提唱し, *Paralepistopsis acromelalga* (Ichimura) Vizzini と記載したが, この論文のなかで日本と韓国にドクササコが発生していると明記し, その根拠として次の文献を引用している。

Lee JY, Hong SW : Illustrated flora and fauna of Korea. No.28. Mushrooms. Ministry of Culture and Education, Korea. 1985.

調べたところこの図鑑は韓国の国立中央図書館にあり, 表紙の英語表記と文中の写真番号と頁番号, ラテン語学名以外はすべてハングルで記載されていて, ドクササコの写真は図218に載っており, 場所は済州島, ハルラサン(1981. 7.19)となっている。しかし, 写真の背景はすでに秋の落ち葉で被われており, 7月では明らかにおかしいことにまず気づい

た。日付は単なる記載ミスだろうと思ったが, 九州や島根県にはドクササコは出ていない<sup>5)</sup>のに, 済州島に出るのも不思議なものだと感じた。

その後, 日本の厚生労働省のホームページ「自然毒のリスクプロファイル:キノコ:ドクササコ(概要版)」をみると, 上段と下段合わせて5つのドクササコの写真が掲載されており, 下段中央の写真は, 上記韓国動植物図鑑に掲載されたドクササコの写真と同一であることに気づき大変驚いた。

韓国の図鑑に掲載されていたドクササコの写真が, なぜ日本の厚生労働省のホームページに出ているのか不思議に思い, 写真提供者の紺野勝弘氏(富山大学)に問い合わせたところ, 1980年頃, 当時の滋賀大学教育学部の横山和正先生から提供していただいた写真で, それをトリミングしたものであるとの返事と実際の資料のコピーが送られてきた。

韓国の図鑑の写真はその写真の上縁を少しだけトリミングして削り, 下縁を少しだけ広げたものであることが, 紺野氏の資料から容易に判明した。同じ写真が『きのこ(JTB ブックス カラー図鑑12)』(横山和正監修, 日本交通公社出版事務局, 1985)の26頁にも載っており, 10月下旬新潟県大島村での撮影となっていた。

さらにその後の調べで, この写真は1977年10月23日に新潟県東頸城郡大島村の孟宗竹林で撮影されたもので, そこで採集され持ち帰ったドクササコは, 本郷次雄氏によりスケッチされ, 記録として残っていたことが判明した(佐久間大輔:きのこの

著者連絡先: 登木口 進

JA 新潟厚生連小千谷総合病院神経内科  
〒947-8701 新潟県小千谷市大字平沢新田111番地  
E-mail : s.tokiguchi@ojiya-ghp.jp

教科書，山と溪谷社，東京，2019，p95.)。

またハンゲルで書かれた現代の分厚い韓国のきのこ図鑑を個人的に2冊ほど取り寄せてみたが，やはりドクササコの写真や解説文は載っていないかった。

韓国からのドクササコ中毒の臨床報告は検索してもみつからず，韓国に本当にドクササコはあるのだろうかと疑問をもつようになった。

本郷氏は韓国できのこを観察しているが，ドクササコを確認したとは記載なく，韓国南部には行っておらず(本郷次雄：きのこの細道，トンボ出版，大阪，2003，pp184-91.)，韓国でのドクササコの存在は日本人研究者により，まだ確認されていないと考えた。

ドクササコが韓国にないということを日本で証明するのは，いわゆる「悪魔の証明」になるので不可能だが，上記の韓国動植物図鑑に掲載された濟州島

のドクササコについては，今回のように資料に基づいてその真偽について検証できる。ドクササコは韓国にはなく，やはり日本特産ではないだろうかと，現在私は個人的に思っている。

〔利益相反〕

本論の内容に関し，企業または団体との利益相反なし。

#### 【文 献】

- 1) Hongo T, Yokoyama K : Mycofloristic ties of Japan to the continents. Mem Shiga Univ 1978 ; 28 : 76-80.
- 2) 今関六也，本郷次雄：原色日本菌類図鑑，保育社，大阪，1957，p20.
- 3) 今関六也，大谷吉雄，本郷次雄編・解説：日本のきのこ，増補改訂版，山と溪谷社，東京，2011，p68.
- 4) Vizzini A, Ercole E : Paralepistopsis gen. nov. and Paralepista (Basidiomycota, Agaricales). Mycotaxon 2012 ; 120 : 253-67.
- 5) 登木口進：ドクササコ中毒. 中毒研究 2017 ; 30 : 350-5.